中沢中

自ら学ぶ力の育成
～自己調整学習を通して～

（３年計画の２年次）

校長　　瀧野　貢二

１　研究主題について

昨年度の研究主題は、「自ら学ぶ力の育成～自己調整学習を通して～」であり、「自己調整学習」という学習方法を学習に限らず、学校行事を含めた様々な活動の場面に導入し、生徒の主体性の向上や自ら学ぶ力の育成、自尊心を高めるための指導方法を研究してきた。目標設定や振り返りを繰り返す中で、生徒の意欲の向上や行事後の達成感が十分に感じられる場面が多くなり、アンケートの分析でも、生徒の望ましい変容が数値から見てとれた。今年度は３年計画の２年目であり、１年目の取り組みで課題とされた内容の改善を図りながら、さらに教師間で研究を深め、より生徒の力を伸ばせるような取り組みを目指していくこととした。

「自己調整学習」とは、「予見段階（課題を分析し、計画を立てる）」「遂行段階（実践しながら自分で自分を観察する）」「自己内省段階（自己評価と結果と原因の分析など）」の「循環的段階モデル」と呼ばれるプロセスにのっとった学習方法であるが、本校では学習に限らず、行事や一年間の目標などにも「自己調整学習」のプロセスを取り入れて、「予見・遂行・自己内省」の一連の流れを繰り返すことで、生徒の「自ら学ぶ力の育成」に迫っていきたい。

２　研究のねらい

「自己調整学習」の考え方の中の「循環的段階モデル」という学びのプロセスを、学習を含めた諸活動に取り入れていくことで、生徒自身が自分の学びを計画し、実践し、自己評価して次につなげていく姿勢を身につけることを目指す。その姿勢を身につけさせることが「自ら学ぶ力の育成」であり、それによって諸活動に向かう際の意欲や主体性を高めることができるのではないかと考えている。そのためには、ただこのプロセスを取り入れるだけではなく、教師が積極的に模範を示す「モデリング」の役割を果たす必要がある。生徒がより効果的に、意欲的に学べるよう、よりよい計画の在り方や学び方、適切な自己評価の在り方などを示し、導いていくための方法を研究し、「自ら学ぶ力の育成」に迫っていきたい。今年度は２年目であるので、昨年度の反省を踏まえ、「自己調整学習」の各教科での取り入れ方をさらに研究し、年２回行うＱＵの学習意欲に関するアンケートや、学校独自で作成する学習意欲に関するアンケート結果の分析などを行い、生徒の変容を見ていきたい。

３　研究仮説

「自己調整学習」の「予見・遂行・自己内省段階」のプロセスを、学習を含めた諸活動に繰り返し取り入れていくことで、生徒自身に自然にそのプロセスが身についていくと考える。また、そのプロセスを形だけ導入するのではなく、各段階において教師が良い計画の立て方、学習の仕方、適切な自己評価の在り方などを示すことで、生徒がよりよい方法を学び、選べるように導いていくことができる。その結果、自分で自分の学びをコントロールし、より良い方法を選びながら意欲的に学ぶ生徒の育成が果たされると考える。

４　研究内容

(1)「自己調整学習」のプロセスを諸活動に取り入れていくタイミングや、ワークシートの在り方を研究する。
(2) 課題解決のためにどんな力が必要とされ、どんな考え方や学習方法があるのかを生徒に明示できるように、教材研究を徹底する。
(3) 生徒の「予見・遂行・自己内省」の様子を手助けし、生徒の意欲を高めるためのアドバイスのタイミングや在り方を研究する。

５　研究の経過

(1) 研究仮説に基づく授業研究

月	日	内容・講師・概要等
４	５	第１回校内研…校内研テーマ「自己調整学習」の確認と方向性
４	２７	第２回校内研…「自己調整学習」の実践例紹介、自主勉について
５	１７	教育指導課・センター訪問
６	３	ＪＳ中学校公開授業
８	３	第５回校内研…「自己調整学習」を取り入れた授業実践紹介と、授業参観月間について
８～９月		授業参観月間
９	１４	第６回校内研…授業参観月間の振り返り
１０	２７	初任研師範授業
１	２４	第８回校内研…今年度の研究のまとめと次年度に向けての協議

(2) 一般研修

月	日	内容・講師・概要等
５	２５	第３回校内研…ＱＵ①(６月実施)、各種アンケートについて
６	２９	第４回校内研…ＱＵ①(６月実施)、各種アンケートの結果分析と考察
１１	１６	第７回校内研…ＱＵ②(１１月実施)、各種アンケート結果分析と考察
１２	１２	ＪＳ情報交換会(小中の実態把握と今後の取り組みについて)

６　研究の成果

(1) 自己調整学習を取り入れた授業の実践例を研修部から提示し、９月の授業参観月間に各教科で自己調整学習を取り入れた授業を行った。授業での実践例の紹介や参観した感想をもとに、その成果と課題について共有した。その結果、課題が明確になり、次年度の取り組みの工夫すべき点を把握することができた。

(2) 学校行事期間にも、自己調整学習の流れを取り入れたワークシートを活用し、目標設定から実行、振り返りを毎回行った。その結果、生徒一人一人の行事への取り組み方の意識が高まり、行事終了後の達成感を感じる生徒が多くなった。また、その後の学校生活に対する意識の高まりも感じられるようになった。

(3) 各種アンケート（自尊感情アンケート―そばセット―・ＱＵ・自己調整学習アンケート）の分析を行い、様々な視点からの生徒理解を深め、日々の指導に役立てることができた。

(4) 「自尊感情アンケート―そばセット（SOBA-SET）―」アンケートでは、6 月と 11 月の結果を比べると、1 年生では 18 項目中 10 項目、2 年生では 18 項目中 13 項目で数値が上昇した。(数値が高いほど自尊感情が高い状態を示す)。このことから、自己調整学習の流れを教育活動に取り入れたことが、生徒の自尊感情を高めた一つの要因になっているのではないかと考えられる。

７　研究の課題

(1) 自己調整学習を意識した自主勉強への取り組みのために、教師側で自主勉強ノートお手本帳を作成し、各教科でポイントを確認し実践したが、考査の結果や終了後のアンケートの結果から、数値の上昇などの思わしい結果を得ることができなかった。そのため、担任だけではなく各教科の教師が、帰り学活の自主勉タイムなどに積極的に関わっていくことも考えていきたい。また、考査終了後の振り返りにもっと重点を置くことが必要だとも考えられるので、次年度は考査ごとの振り返りワークシートなども活用していきたい。

(2) 「自己調整学習」アンケートでは、6 月と 11 月の結果を比べると、全学年において、多くの項目で数値が下降した。このことから、教師側が自己調整学習に対する理解を深め、自己調整学習を進めていくための様々な力をさらに向上させていく必要がある。また、「予見」「遂行」「自己内省」のうち、「自己内省」をまだまだ十分にできていない生徒がいることも一因と考えられるので、そのような生徒へ教師側が指導や支援の在り方を模索していくことが大切である。

（記入者　　蛯名朋子）